



校長室だより

月立小学校 校長 村上克弥
平成30年10月30日
☎55-2260 第7号

教育目標

ふるさとに誇りをもち
夢と希望に満ちた
心豊かでたくましい児童の育成



読書の秋



秋も深まり「天高く馬肥ゆる秋(てんたかくうまこゆるあき)」という言葉が相応しい季節となりました。「天高く馬肥ゆる秋」は漢書とよばれる古代中国の歴史書にある言葉だそうです。その言葉にはもともと、秋の収穫の時期に、北方の民族が馬に乗って、その収穫物を略奪にくる時期でもあることをさしていたようです。現代では、「秋、空気が澄んで空が高く感じられるころ、馬もよく食べてたくましくなる」の意味で使われているようです。ここから「食欲の秋」という言葉が生まれたそうです。

また、秋と言えば「読書の秋」です。小さい頃にたくさん本を読む子は賢くなります。いろいろなことを想像したり、考えたり、心も豊かになりますと言われました。しかし、一方ではパソコン等の普及もあいまって、どんどん活字離れが進んでいるのが現状です。子どもたちの学力低下問題が騒がれるきっかけとなったのは、2004年に発表された経済協力開発機構(OECD)による調査の結果でした。学力の土台となる読解力が低下すれば、すべての教科に影響することは当たり前です。それだけに、読解力を高める方法として、読書の大切さが改めて強調されてきました。もともと読書はそれ自体が楽しい活動であり、人間として成長する上で欠かせないものです。読解力は結果としてついてくるものであり、目的ではありません。本の楽しさを知って本好きになる、読書の習慣が身に付いて人間の幅が広がります。そして、生きる力の糧となることが読書の力だと思えます。

本校でも進めている読書活動に業前の「読書タイム」があります。本校では、「みんなで一緒に読む、好きな本でよい」という非常にシンプルな原則があります。本は子ども自身に選ばせること、子どもの負担になる感想文を強制しない。そのことが継続することにつながっています。「読書タイム」は一つのきっかけづくりであり、それを楽しみにしている子が確実に増えています。写真は、図書室の「おすすめ本コーナー」です。それから、学校では学期ごとに多読賞を与えています。2学期、低学年は40冊以上。中学年は25冊以上。高学年は20冊以上です。多くの子どもたちが多読賞をとれるよう学校としても読書の啓発をしていきたいと思っています。是非、ご家庭においても読書がどんどん広がってほしいと願っています。夜、親子で読書タイムを作ったり、読み聞かせを試みたりするなど工夫してみてはいかがでしょうか。



図書室の「おすすめ本コーナー」
※作成したのは、月立サポートスタッフ
こだま隊の吉田悠佳さんです。